

給食のためにみんなが持ち寄りました

11月24日（火）水元中央小学校（下山新市校長）で、児童たちが各家庭からリンゴを持ち寄って学校給食に提供する「リンゴ一籠（ひとかご）運動」が行われました。

秋から春にかけて給食に毎食リンゴを出す取り組みを行っている学校給食共同調理所（給食センター）では、毎年町内の生産者や各学校の保護者に呼び掛けて、たくさんのリンゴを提供していただいております。今回の運動もその一環で行われており今年で4年目になりました。

朝、家の人が大切に育てたリンゴを手かごいっぱい詰めて学校へ登校すると、玄関前にはたくさんのテレビ局や新聞社の方がいてびっくり。少し照れくさそうに中野町長と先生方にあいさつをしたあと、リンゴ箱に丁寧に詰め替えていました。今回集まったリンゴは10箱（約200kg）になり、これから皆さんの給食に並びます。



△リンゴを持って登校する児童たち



11/22 富士見小学校児童体験大会

11/27 町正人先生の生き生き講演会

11/24 教室で介護教室を開催



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。（☎22-2111 内線263）

リンゴの競り市を見学

11月17日（火）早朝、菖蒲川小学校（川浪定雄校長）6年生の児童が、五所川原中央青果市場でリンゴの競り市を見学しました。

今回、春から児童が育てたリンゴ6箱も競りに掛かるとあって、みんななどのくらいの値段になるのだろうと興味津々。市場の方から競り市の仕組みなどを学び、その後競りが始まるとみんなの目は自分たちのリンゴに集中です。結果はなんとその日の一番の高値で取引され、子どもたちは大喜び。子どもたちが一生懸命取り組んだ農作業が実を結んだ1日となりました。



△当日競りに出されたリンゴ



△市場の方から、競りで使われる指で示す数字を教わる



△どんなリンゴが高値で取引されるのかを学ぶ児童

サエラが富士見小でコンサートを開く

12月3日（木）、富士見小学校（工藤志津子校長）で、文化庁「学校への芸術家等派遣事業」の一環として、県内はもとより全国で活躍しているサエラの2人によるコンサートが開かれました。

サエラのボーカル、菊地由利子さんは、鶴田町の出身で、子どもの頃のエピソードを交えながら、すばらしい歌声を集まった児童や父母の前で披露してくれました。

最後に菊地さんから津軽弁で「夢さ向って、本気になって頑張るんだよ」と子どもたちへエールを送り、児童と一緒に富士見小学校の校歌を歌ってコンサートの幕が閉じられました。



△照れくさそうに記念撮影する児童



△みんなの知っている曲をたくさん歌ってくれました



わたしたちのリンゴ食べてください

11月18日（水）、町の農業後継者団体である鶴田町みどりの会（釜菴和也会長）の皆さんが、学校給食用にと40箱（約800kg）の無袋ふじを無償で町に提供してくれました。

鶴田町みどりの会では、会員に呼び掛け毎年学校給食にたくさんのリンゴを提供しており、今年で5年目になります。

釜菴和也会長は「去年は、ひょう害でたくさんリンゴを提供できませんでしたが、今年はバッチリです。市場に出てもおかしくない良品揃いで、絶対おいしいですから残さず食べてくださいね」と笑顔で話してくれました。これからみどりの会のリンゴが給食に出ますので楽しみに待っていてください。

「ふるさと産品の日」給食交流会

11月20日（金）、菖蒲川小学校（川浪定雄先生）3、4年生合同で、鶴田町学校給食共同調理所（給食センター）が主催する「ふるさと産品の日」給食交流会が開催されました。

はじめに、給食センター栄養教諭 木村幸子さんから、給食では毎日どのくらいの量の食材が使われているのか、調理員さんは毎日どんな作業をしているのか、食材はどこから来ているのかなどのお話がありました。

その後、学校給食応援隊やみどりの会の皆さん、給食センターの調理員さんたちと一緒に、地元の食材がいっぱいの給食を味わいながら交流を深めていました。



△給食の食材を提供している学校給食応援隊とみどりの会の皆さん



△当日のメニューは、テンペ入りご飯、サバの照り焼き、白菜のごま和え、芋の小汁、ブドウ。使用された鶴田産の食材は、コメ、大根、テンペ、白菜、ニンジン、ブドウ、長ネギ、焼き豆腐でした。